

<オリエンテーション>

A. テーマ

「キリスト教思想における自然の諸問題」(昨年度から連続、今後、4年程度?。)

B. 何が問題か(導入)

- ・「宗教と科学という問題群」
  - 方法論(文化から自然へ、言語の問題)
  - 自然神学の再解釈(キリスト教の合理性)
  - エコロジーなど生命論(実践的射程)
  - 近代科学とキリスト教(思想史的問題)
- ・「宗教と科学という問題・問題群」の意義
  - 実践的意義、そしてキリスト教自体からの必然性
- ・問題の困難さ 宗教と科学との相互理解の場は再構築可能か?
- ・「自然の宗教哲学」をめざして
  - ティリッヒの「生の次元論」の発展

<今年度の特徴>

「演習」と有機的に関連させる。

Alister E. McGrath, *The Foundations of Dialogue in Science & Religion*,  
Blackwell 1998

EXKURSを前期2回ほど行う。

<講義の進め方>

<なぜ「自然」なのか>

個人的な動機

キリスト教にとって、とくにキリスト教思想にとって、自然の問題、あるいは科学との関わりの問題は、避けて通れない問題である。

聖書の神は経験の全体性との関わりを要求する(パネンベルク)

キリスト教思想は形而上学的問いを内包せざるを得ない

キリスト教思想がときどきの学問や科学との討論を成り立たせるために、構築された合理的議論の場(コミュニケーション合理性)としての自然神学

Ingolf U. Dalferth, *Theology and Philosophy*, Blackwell 1988

Jaroslav Pelikan, *Christianity and Classical Culture. The Metamorphosis of Natural*

*Theology in the Christian Encounter with Hellenism*, Yale University Press 1993

現代の科学技術文明の問題、とくに現代を特徴づける倫理的諸問題。  
最近の問題状況の変化。自己決定の後退。

### C.これまでの経過 (HPの掲載)

- ・2000, 2001年度は、本格的な研究のための予備的考察を行った。
- ・「キリスト教思想における「自然」をめぐるの諸問題」

#### < 2000年度 >

講義への導入(4/17)

第一章:文化から自然へ

- 自然はいかなる仕方でもキリスト教思想の問いとなるか -

1. マクフェーグの隠喩神学と自然の問い(5/8,15,22,29)
2. ティリッヒの文化の神学と自然の問い(6/5,26)
  - 2 - 1:なぜ文化の神学が、自然はいかに問われるのか
  - 2 - 2:ティリッヒと自然の問い

Exkurs:南アジアのキリスト教 - インドを中心に - (9/25)

第二章:自然神学の諸問題

1. 自然神学は過去の遺物か? (10/2)
2. 自然神学とは何か - 歴史的起源 - (10/16)
3. 自然神学をめぐる諸立場
  - 3 - 1:自然神学批判(哲学的な)(10/23)
    - (1)アンセルムスの論証
    - (2)ヒュームの自然神学批判
    - (3)ヒュームにおける自然神学批判のまとめ
    - (4)カントの自然神学批判
  - 3 - 2:自然神学批判(神学的な)(10/30)
    - (1)バルト神学と自然神学
    - (2)バルトによるアンセルムス解釈
    - (3)バルト神学の学的性格
  - 3 - 3:自然神学の再建に向けて(11/6)

まとめと展望(11/20)

#### < 2001年度 >

オリエンテーション(4/16)

序:キリスト教思想と自然の問い

- アインシュタインの宗教論を手がかりに - (5/7)

第三章:キリスト教思想と環境倫理

- 1:問題状況 - 環境破壊とキリスト教の責任 - (5/14)
- 2:創造物語における「自然」の支配(5/21)or(5/28)
- 3:キリスト教的創造論の展開と自然理解 (6/4)
- 4:新しいキリスト教倫理と神秘主義
  - 4 - 1:ノーリジのジュリアン (6/25)
  - 4 - 2:シュヴァイツァーの「生命への畏敬」(6/25,7/2)
  - 4 - 3:キリスト教倫理における責任論 (7/2)

#### 第四章:近代科学とキリスト教

- 1:近代キリスト教の歴史的状況 (10/15)
- 2:神学者ニュートンと自然神学(10/22)
- 3:ニュートン主義と理神論 (11/19)
- 4:キリスト教の合理性をめぐって(11/19)

#### EXKURS

- 1:ティリッヒとエコロジーの問題 (10/1)
- 2:P・ティリッヒの科学論とその現代的意義 (10/29,11/5)

#### < 2002年度 >

オリエンテーション(導入) - 宗教と科学という問題・問題群1 - ( 4/16)

#### 第一部:自然の宗教哲学の構築を目指して

##### 第一章:自然の宗教哲学の構想とティリッヒの次元論

- 1 - 1:宗教的問いとしての健康と病 (4/23)
- 1 - 2:新約聖書と治癒者イエス (5/7,5/14)
- 1 - 3:ドイツ観念論と生の動態 (5/21, 5/28)
- 1 - 4:ティリッヒの生の現象学
  1. 生の多次元的統一性 (6/4)
  2. 神学体系における生 (6/25)
  3. まとめ (7/2)

##### 第二章:宗教言語と科学言語

- 2 - 1:問題状況 (10/8)
- 2 - 2:隠喩論から見た科学と宗教
  1. 現代言語論における隠喩 (10/15)
  2. 科学言語と隠喩 (10/22)
  3. 宗教言語と隠喩 (10/29)
- 2 - 3:レトリックから見た科学と宗教
  1. レトリック論再考 (11/5)
  2. 科学的知とレトリック (11/12)
  3. 宗教的知とレトリック (11/19)

2 - 4 : まとめ - 現代キリスト教思想の動向から - (11/26)

EXKURS 1 : 「多元社会を生きるキリスト教 - 民族、平和 - 」(6/11)

EXKURS 2 : アジアの宗教的多元性とキリスト教思想の再構築 (10/1)

## D. 2 0 0 3 年 度 ・ 特 殊 講 義 予 定

オリエンテーション - 「宗教と科学」問題群 2 -	4/14
第三章 : 形而上学再考	
3 - 1 : 問題	4/21
3 - 2 : 形而上学とキリスト教思想 - ハイデッガー、パネンベルク -	
3 - 3 : 「宗教と科学」問題群と形而上学 - ギルキー -	4/28
3 - 4 : 形而上学の可能性 - ホワイトヘッドとプロセス神学 -	5/19,26,6/9,16,30
第四章 : 精神と宗教	
4 - 1 : 精神とは - ドイツ観念論とキリスト教思想 -	
4 - 2 : 生の次元論と精神 - 新しい次元の創発性の理論化に向けて	
4 - 3 : 社会システム論とパラドックス - ルーマン -	
EXKURS 1 : 「宗教的多元性 - 対話 - 平和 - グローバル化」	5/12
・ 「宗教間対話と平和思想の構築 - 現状と課題 - 」	
・ 「キリスト教思想の再構築とアジアの宗教的多元性」	
第1節 . 問題状況	
第2節 . 近代世界とキリスト教の変動	
第3節 . エキュメニズムから宗教間対話へ	
第4節 . アジア・キリスト教の可能性	
第5節 . 対話は何を指すのか	
・ 「多元性・グローバル化」「民族主義と平和」	
EXKURS 2 : 「宗教と科学 - 宗教学の科学性、生命、環境 - 」	6/2
・ 「科学としての宗教学」	
宗教学の科学性	
宗教とは何か	
宗教現象のモデル化	
宗教心理学	
・ 「宗教改革と科学」	
・ 「生命倫理の新しい動向」	
・ 「終末論とエコロジー・エコノミー」	

## E.受講の注意

- ・配布プリントとHP
- ・単位は、年度末のレポートによる(提出は、1月上旬)